

ハート・オブ・ゴールド



通信

vol.48

2023年1月15日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川 895-7
レジデンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail:hginfo@hofg.org
https://www.hofg.org/



3年生の学生に特別講義



子どもたちと市場に食材の買い出し



JICA カンボジア事務所へ表敬訪問



在カンボジア日本国大使館の三上大使と

有森代表 4年ぶりのカンボジア訪問

事務局次長 井上 恭子



11月29日から12月6日までの8日間、有森代表がプノンペンとシェムリアップの活動現場を訪れました。

3年ぶりに通常開催されたアンコールワット国際ハーフマラソンに参加しました。69カ国7,543人の参加者のうち、カンボジア人ランナーの参加が5,814人と、とても増えています。また、ナショナルゲーム（カンボジアの国体）の閉会式にも出席し、障害者大会も含めた運営が無事に終了していました。コロナ禍の空白と、設立からの年月の流れに、驚きと喜びを隠せませんでした。

そして、在カンボジア日本大使館の三上大使、シェムリアップ領事事務所の川口所長、JICA カンボジアオフィスの亀井所長を表敬訪問しました。体育科教育事業で協力しているカンボジア教育・青年・スポーツ省の次官補 Bou Chumserey 閣下、スポーツ総局長 Ouk Sethycheat 閣下、同省顧問 Prum Bunyi 閣下、学校体育スポーツ局 Bun Kimtor 氏、国立体育・スポーツ研究所 (NIPES) 学長 Hou Sitthisophealai 氏とは、現行事業、及び今後の展開について協議を行いました。スポンサーの方々にもご挨拶に伺い、滞在中は時間を惜しみなく精力的に活動しました。

特に、NIPESの学生を対象とした特別講演では、オリンピックメダリストであっても、特別な存在であったわけではないと、子どもの頃の話や恩師との出会いにも触れ、スポーツを通して感動を力にして生きていけるチャンスがあり、学生の皆さんが教師となって子ども達にそれを伝えることができる、と熱く語り、激励しました。NCCCでは、子ども達と一緒に市場に買い物に出かけ、昼食をつくり、食卓を囲みました。

【日本 NGO 連携無償資金協力事業】

国立体育・スポーツ研究所 (NIPES) 体育科コース 4 年制大学化プロジェクト

プロジェクト・マネージャー 手束 耕治

新型コロナウイルスの感染拡大により、NIPES 閉鎖、オンライン授業、海外研修の中止という大変厳しい状況でしたが、今年になってカンボジア政府はウィズコロナの方針を打ち出し、経済・社会活動の通常化にあわせ、本事業の活動もほぼ予定通り進むようになりました。

教員育成においては、NIPES 関係者 4 名が本邦研修 (7/2-13) に参加し、日本体育大学にて講義・実技の授業等を視察。大学のカリキュラム構築やシラバス作成について学び、個々の教授能力の向上と、大学に求められる学生の主体的な学びを促進するための環境、制度づくりについて考える機会を得ることができました。研修後、得た経験・知識を NIPES 内でシェアするための研修会 (8/29-31) を開催しました。



10 月日本研修、岡出教授の講義

また、NIPES の運営面の組織強化を図るため、さらに 4 名が本邦研修 (10/22-11/2) に参加し、人事管理、評価システム、人材育成、国際センターや学修支援センターの運営につ

いて学び、東京都の現職教員研修会にも参加しました。

そして、インドネシアの Negeri Semarang 大学に NIPES 関係者 4 名を派遣 (10/17-22) し、体育スポーツ分野における相互協力の促進を目的とした覚書を締結することができました。

また、7 月に中学校や高校の体育の教育実習、8 月、9 月に NIPES の授業評価、9 月に運営について 9 分野 124 項目の評価シートを使い、それぞれモニタリングを行いました。

NIPES 教官の体育に関する専門知識の向上のため、図書をクメール語に翻訳して教科書を作成するための研修会を 6 回開催し、12 月に完成します。

学生寮は、屋根構造・瓦、天井板、床タイルの交換、室内の塗り替え、戸窓の補修、加圧給水ポンプ設置という全面改修工事を行い、9 月 15 日に完了しました。



9 月、学生寮改修工事が完了

【JICA 草の根技術協力事業】

カンボジア王国 小学校から高等学校まで一貫した高い質で学ぶ

「Physical Education for ALL」プロジェクト

プロジェクト・オフィサー 森 洋貴

本事業では、プノンペン都、バットアンバン州、スヴァイリエン州の全ての小・中・高に知識・技能・態度が学べる新しい体育を普及し、子ども達が健やかな身体と豊かな心を育てていくことを目指しています。

3 月にモニタリングを開始した当初は、3 都・州の学校の多くには新しい体育が浸透していませんでした。そこから教育省ナショナルトレーナー、教育局担当官、校長先生、現場の先生方の協力に変化をもたらしました。9 月まで続いたモニタリングは、教育局担当官が主体的に訪問校を決め、学校での体育の実施状況の理解に加え、体育普及のための意見交換も積極的に行うようになりました。

9 月には、14 名の研修員が東京と岡山で本邦研修を実施しました。これまでとの違いは、中央ではなく地方教育局担当官や学校の教頭、教員が参加したことであり、

日本の小・中学校の体育授業の見学、先生との質疑応答・意見交換は、彼らにとって有益なものとなりました。カンボジアの体育の発展のために多くの知見を持ち帰りました。



スヴァイリエン モニタリング 8 月

また、9 月と 10 月に各都・州で実施された評価ワークショップでは、現場の先生が授業者と生徒役になり、よりよい授業方法について検討を重ねました。そのうち、プノンペンでのワークショップには広島大学より齊藤一彦教授をお招きし、授業研究の手法について学び、カンボジアに根付く方法を考えました。

体育を楽しむ子ども達の明るく元気な姿は、毎日のようにテレグラムという SNS で共有され、自分の授業を他の先生に見てもらうことで、先生同士の熱意をさらに向上させています。

障害者陸上支援

プロジェクト・オフィサー 米山 遥香

11月初旬、カンボジアパラ陸上選手5名が来日し、株式会社OXエンジニアリングにてレーサー（競技用車いす）の採寸を行いました。カンボジアパラスポーツをサポートしているカンボジア国民議会議員フン・マニー氏、教育・青年・スポーツ省ソク・サバイナー事務次官補も同行されました。選手達は中古のレーサーを使用しており、ボロボロになってもまだ自分で修理をして使い続けていました。2023年カンボジアでの開催が決まっている東南アジア大会（SEA Games）、東南アジアパラ競技会（ASEAN Para Games）を控え、選手の活躍とメダル獲得に向け、両氏らがドナーとなりレーサーの購入が実現しました。

また、カンボジアパラ陸上チームをサポートしてくださっているグロップサンセリテ WORLD-AC の松永仁志選手兼監督も駆けつけてくれ、専門的なアドバイスをいただきました。完成は2月で、選手達は日本製の高品質のレーサーを手をすることを、今からとても楽しみにしています。

第41回大分国際車いすマラソンが11月20日に開催され、ヴァン・ヴォン選手、ヘン・サヴン選手がアジア地域の障害者スポーツ振興を目指して新設された「アジア・チャレンジ・アスリート」枠として招待されました。ヴァン・ヴォン選手は開会式での選手宣誓も任され、力強く宣誓を行いました。フルマラソン・ハーフマラソン合わせて海外12カ国含む158名の参加があり、ヘン・サヴン選手はハーフ8位、ヴァン・ヴォン選手は途中コースを間違えて遅れましたが無事完走し、59位でフィニッシュしました。初めての日本での車いすマラソンに参加し、沿道の応援に励まされ、とても楽しく走れたようです。「カンボジアに戻ったら、日本のようにもっと若い世代に興味を持ってもらえるように、競技人口を増やせるように、努力したい」と話していました。

また、12月4日には、第27回アンコールワット国際ハーフマラソンが開催され、ハート・オブ・ゴールドがサポートする障害者ランナー42名が参加しました。



株式会社OXエンジニアリングでの採寸の様子



ハーフの部、一斉にスタートした選手ら

第12回 親子チャリティマラソン in おもちゃ王国



親子でマラソンを楽しむ様子

10月2日（日）、まだ少し暑さの残る秋晴れの下、244名のランナーを迎え開催されました。

一気に駆け抜ける元気な少年、ゆっくりと完走を目指すお父さんとまだ幼い子、お母さん同士話しながら、と様々です。途中、足が止まってしまったも、保護者の方がそっと背中に手を添えて、励ましていらっしゃる姿も見かけました。また、終了後の本部テントに「毎年来ています」「来年も参加します」とお声掛けいただき、リピーターのご家族も多くいらっしゃいます。

この大会は、親子で走ること、オリンピックである有森代表と走ること、遊園地内を走ることを通して、走る楽しさを実感し、スポーツ愛好のきっかけとなることを願っています。また、カンボジアの小学校へ鉄棒設置を行うチャリティ大会でもあります。今大会からは、鉄棒2基分の寄付をいただきました。

ご参加の皆様、ご協力企業・団体の皆様、ありがとうございました。

ニュー・チャイルド・ケアセンター (NCCC)

プロジェクト・アシスタント 平井 利恵

■ NCCC の柵が倒れた！

雨季の7月、大雨の翌朝に NCCC の柵が隣の田んぼ側に倒れ込んでしまいました。隣家の田んぼの稲にも影響するため、スタッフが大きい子達と一緒に、コンクリート柱をつないでいる有刺鉄線で怪我をしないよう注意しながら、柵を一本一本、NCCC 側に倒し入れました。防犯のためにも早急に修理する必要がありますが、NCCC の所在地は、世界遺産であるアンコールワット遺跡の「ゾーン2」に該当し、建築、改修に国の許可が必要です。現在、遺跡エリアを管理する機関への修繕申請の手続きを行っています。



一気に隣の田に倒れこんだ柵

■ 浄水装置を設置しました

「安全な水を子ども達に」との思いで設置していた浄水器が老朽化のため使えなくなりました。カンボジアも、大都会では上水道普及が進んできていますが、農村部はまだ少なく、感染症の危険があります。近くのチェイ小学校の浄水器に毎日水汲みに行っていました。

岡山ロータリークラブ様からのご支援で、新しい浄水システム一式を設置することができました。事前調査の後、11月14日現地 NGO スプラッシュにより、設置が完了しました。2つのフィルター（砂や汚れを除去）と UV ランプ（殺菌）によって、安全な水が確保されます。

今後、フィルター交換と水質検査により安全を確認します。



安全な水をありがとう

■ 栄養改善

一昨年夏より、栄養改善を進めています。いつもの食事に、毎日、バナナと茹で玉子を1個ずつ取り入れています。食事の栄養バランスを整え、元気な身体づくりを目指しています。

カンボジアでは家庭科の授業や保健の授業がないため、子ども達が栄養について学ぶ機会がありません。11月に、現在インターンの吉村さんが、子ども達に「食と健康」というテーマで、主に食べ物が身体に与える影響について指導しました。全員で栄養についての話を聞くのは、初めてでした。普段よく食べている食品を例にあげ、「足りない色(栄養素)は何だろう」「どうして食べるのが大切か」など、より子ども達の生活体験に近づけて説明しました。

食事は「空腹を満たす」「美味しい」という幸せな気持ちと成長期の子どもの身体を作り、調子を整える大切な役割を持っています。子ども達自身が健康を意識できるよう、引き続き、栄養改善を進めます。



「食べ物と健康」について熱心に聞く子ども達

■ 自立 最初の一步

社会に出る準備をしていたダウン・サレットさん（現在 20 歳）が、シェムリアップ市街の中心地にあるレストランで働き始めました。

実家はとても貧しく、親戚の住む小さな家に身を寄せて、十分な食事が摂れない生活でした。5歳で NCCC に入所してから長い間ハート・ペアレントの皆さまからご支援いただき、衣食住に困らず、義務教育である中学を卒業することもできました。インターンとしてスタッフのピセイさんから料理を習ったり、食材の買い出し、子ども達の世話などをしていました。そんな中、本人からレストランで働きたいとの声が出ました。

スタッフが職場環境や住居などを確認して彼女のスタートを応援することにしました。就職後のヒアリングでは皿洗いやウエイトレスといった仕事の内容や友人との共同生活など話してくれました。ぎりぎりの生活ですが、彼女を見守り、今後も困った時は相談できる場所でありたいと願っています。



「頑張って貯金します！」

HG ももたろう日本語学校

校長 村上 貴美子

7月24日、「カンボジアの未来を担う日本語教師」として、国際交流基金によるナムオイ先生、ティアラ先生へのインタビューが実施され、その様子が動画として公開されています。



インタビューを受けるナムオイ先生（左）とティアラ先生

また、6月下旬から10月にかけて9回行われた国際交流基金による教材（「いろいろ」）の研修にティアラ先生が参加し、実際の授業に活用しています。

8月から3カ月間、文化庁主催による留学を目的とした外国人向けのONLINE授業が始まりました。当校の生徒も、岡山外語学院が実施する初級コースと観光コースに参加しました。参加者は、日本に行きたいという思いを一層強くしていました。

10月26日には、カンボジア日本大使館シェムリアップ領事館の川口所長にご訪問いただき、コロナ禍での

シェムリアップの状況、現状での日本語教育の難しさなどのご説明を受け、また励ましをいただきました。

2020年3月より一時帰国中だった村上が、11月に現地入りしました。アフターコロナに向けて、再度体制を整えていきます。

卒業生の活躍

先日、第1期留学生のチュン・スレイミーさんから嬉しいお知らせがありました。

皆様、お久しぶりです。スレイミーです。2007年8月から1年間、皆様のご支援のおかげで日本留学を経験させていただきました。

さて、このたび私は、2022年の7月にカンボジアで実施された日本語能力試験で、N1に合格できました。とても嬉しく思い、ご報告させていただきます。HG会員の皆様をはじめ、事務局、日本語の檜尾睦先生、そして岡山学芸館高等学校の先生方のおかげです。

日本語は勉強すればするほど難しく、わからない言葉もまだまだたくさんありますが、これまで勉強してきたことや経験したことを基にしているいろんなことにチャレンジして行きたいと思います。

私は2年前に岡山を再訪したいと思っていましたが、予想もしなかった大変なコロナ禍を迎え、日本に行くことができませんでした。ただその後、カンボジアは以前のように外国の方も簡単に入国できるようになっています。私は現在、プノンペンで日本語を活かした仕事をしながら生活しています。

これからもカンボジアの活動、そして留学生への変わらぬご支援のほど、宜しくお願い致します。カンボジアにお越しの際は是非お声掛けください。



N1合格証書を持つ微笑むスレイミーさん

日本語能力試験で最も難しいとされ、カンボジア人では数少ないN1の合格。とても努力された結果です。本当におめでとうございます。これからも、日本とカンボジアの架け橋として、ご活躍を期待しています！

国際理解教育

副代表理事 田代 邦子

世界情勢が大きく動いているこんな時だからこそ、子ども達・青年達には、世界に目を向けてほしいと願います。「できる人が、できることを、できるだけ続けよう」をモットーに学校の児童、生徒さん達から石鹸、タオル、文房具、絵本などの生活用品、教材など支援をいただいて、カンボジアの子ども達は元気に育っています。

現地とのオンライン交流は、事前にお互いの質問を出し合って、それに答えていく形をとりました。NCCCのスタッフであるスライノッチさんが、同時通訳をして進めます。

出前授業の講師として学芸館高校留学後、特定技能介護評価試験に合格し、現在介護施設で働き、自立し生活



しているNCCC出身のスライノッチさんも話しました。自分の今までのことを振り返りながら、児童の皆さんに「幸せって何ですか」と問いかけました。頑張ることで人生が変わったと話しました。

HG 福島クラブ 10 周年記念式

10月14日（金）HG 福島クラブ 10周年記念式典が執り行われました。本田会長、今野事務局長を始め多くの会員さんが集まり、有森代表、田代副代表、西山事務局長も参加しました。

2010年10月3日に約30名の方々により福島クラブが発会し、翌2011年3月11日に大地震と津波、福島原子力発電所事故の大災害を受け、本部と福島クラブ、石巻クラブは緊急救援・復興に向けて、怒涛の活動を進めました。避難所、学校への緊急物資支援から始まり、宮城と福島への太陽光街路灯設置（4年間で100基以上）に協力できたことなど、感慨深い活動で話が尽きませんでした。

翌15日（土）には、記念行事として「福島県立保原高校100周年記念式典」にて有森代表の講演「すべてを力に～チャレンジライフ～」が行われました。

福島県は多くの生徒の減少が見込まれており、100年続いた県立保原高校も来年には、他校と統合される予定です。代表は同窓生、教職員、生徒たちに向かって、自分の学生時代を振り返りながら、諦めない事、信じて前に進むことがいかに大切かを真摯に話しました。前向きなメッセージとして皆様の心に深く届いたと感じました。

この日からHG 関東クラブ志澤リーダー、HG 関西クラブ島尾リーダーも参加し、翌日にはHG 石巻クラブの木村先生にもお会いし被災地を巡りました。



多くの参加者が集い10周年を祝った

大変な惨事を乗り越えてきた東日本ですが、ハード面は復興ができつつあります。その一方、まだこの先の道のりは長いと感じました。震災を忘れないために、門脇小学校跡地に「石巻市震災遺構門脇小学校」が公開されています。展示物から、DVDや、人々の言葉、未来への教訓など、多くのことを感じる事ができました。

今後大きな災害がないことを祈るばかりですが、昨今の地球温暖化からくる災害は、避けられないようにも感じてしまいます。

みしま西山連峰登山マラソン大会 代表講演会

9月16日、みしま西山連峰登山マラソン大会にて有森代表が講演会を行いました。有森代表は2014年に30回大会を記念してゲストランナーとして参加し、以降、毎年特別ゲストとして参加しています。しかし、コロナ禍で3年連続で開催できず、今年は講演会が開かれました。「すべてを力に～チャレンジライフ～」をテーマに長岡市立三島中学校生徒の皆さまを激励しました。



長岡市立三島中学校の皆さまに見送られる有森代表

奈良トヨタ株式会社様より自動車の寄贈

10月3日、設立80周年記念として、同社賢島研修所にて寄贈式が行われました。

有森代表はじめHGスタッフも参加し、社員の方々との交流もさせていただきました。

今回が2度目のご支援となり、1台目の車は、まほろばミュージアム（奈良市、トヨタの初期モデルや名車を集めた同社の自動車博物館）にHGの紹介とともに展示されています。



奈良トヨタ（株）菊池社長様と記念の1枚

定款における正会員、賛助会員について

2022年6月の総会の定款変更について誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。

第3章 会員

(種別) 第6条 法人会員並びに個人会員を社員とする。(現状)

総会にて正会員および賛助会員をもって社員とするに変更をお願いしましたが、正会員のみが特定非営利活動促進法上の社員となりますので、2023年6月の総会にて、下記のように提案させていただきます。この法人の会員は次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法上の社員とする。

(1) 正会員

この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体

(2) 賛助会員

この法人の目的に賛同し賛助するために入会した個人及び団体

よって通信 No.47 の会員種別変更のお知らせもこれに沿って、訂正させていただきます。

正会員： この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体で総会時に議決権はあるが、寄付金控除証明書は発行されない

賛助会員： この法人の目的に賛同し賛助するために入会した個人及び団体で総会時に議決権はないが、全額寄付控除証明書は発行されます

東南アジア事務所にインターン受け入れ

みなさんこんにちは。7月からハート・オブ・ゴールド東南アジア事務所でインターンとして勤務をしています。私は主に「カンボジア王国国立体育・スポーツ研究所(NIPES)体育科コース4年制大学化プロジェクト」の活動に携わらせていただいています。

カンボジアにきて4ヶ月が経ちました。活動する中で、NIPECの課題について、話し合いが重ねられています。インターンが始まったばかりのころは、知らないことも多く、この話題についていくことができずにいました。

しかし、時間が経つにつれて、一歩踏み出し、完璧に理解できなくても、まずは相手を知ろうとすることが、現地の方々と「ともに」活動を進めていくうえで必要なことだと感じるようになりました。こう感じるようになったのは、様々なことにトライする環境を与えていただいたことや、トライすることに対して価値があると教えて

東南アジア事務所 インターン生 吉村 ひかり

くれたカンボジアの方々の温かさに支えられているおかげです。NIPESのプロジェクト以外にも、とにかく最初の一歩を踏み出すことで、世界が大きく広がることを実感する機会が幾度もありました。カンボジアでのインターンは2月までと残された期間は少ないですが、最後まで駆け抜けたと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



11月にNIPESで行われた教科書作成ワークショップでの講義の様子

主な活動報告 (2022年後半)

7/2-13 NIPES 本邦研修 (東京)
8/31 有森代表 三木記念賞受賞 授与式 (岡山)
9/8-16 JICA 本邦研修 (東京・岡山)
9/15 NIPES 学生寮完成
9/16 みしま西山連峰富山マラソン大会 講演会
9/26 朝日塾小学校とNCCC オンライン交流会
10/2 第12回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国
10/3 奈良トヨタ(株)様より自動車の寄贈
10/14 福島クラブ設立10周年記念式
10/15 福島県立保原高等学校創立100周年記念講演会
10/15 JANNET「リハ協カフェ」シンポジウム 登壇
10/17 Universitas Negeri Semarang 大学と覚書締結(インドネシア)
10/20-26 国際貢献NGOフェアパネル展(岡山)
10/22-11/2 NIPES 本邦研修 (東京)

11/7 (株)OXエンジニアリング様にて競技用車いす計測
11/8 岡山市立第三藤田小学校とNCCC オンライン交流会
11/20 第41回大分国際車いすマラソンカンボジア選手参加
11/21 2022年度第2回理事会(オンライン)
11/26 大阪陸上競技連盟100周年記念講演会
11/29 岡山市立政田小学校 出前授業
12/4 第27回アンコールワット国際ハーフマラソン
12/15 岡山市立野谷小学校 出前授業
12/17 ランプロ シューズ贈呈式(岡山)
12/18 第41回山陽女子ロードレース パネル出展

主な活動予定 (2023年前半) 変更あり

3/19 淀川マラソン&ウォーク2023
4/16 第33回かすみがうらマラソン
2月 2022年度第3回理事会
6月 理事会・総会・会員交流会

事務局より

* **HG 会員募集!** 友人・お知り合いの方をお誘いください。
正会員 (個人1口3,000円/年、法人1口30,000円/年)
賛助会員 (個人10,000円/年、法人50,000円/年)

* **あなたの想いを形にしませんか**
相続財産、または、遺贈としての寄付をお願いしております。ご寄付には相続税がかかりません。
詳細は事務局にご相談ください。

*集めています

未使用の切手、レターパック、書き損じはがき、QUO カード、商品券などご寄付ください。本部事務局までお送りください。

* **ボランティア・インターン募集!** 本部事務局にて、事務補助、翻訳、イベント補助をしてくださる方。

【メールアドレスの登録をお願いします】

経費削減のため、通信やお知らせ等をメール配信する準備を進めています。ご協力いただける方は、右 QR コードをスマホなどで読み込み、登録用の画面で手続きをしてください。



ご支援ありがとうございます

(2022年4月～2022年9月)